

第4学年 国語科学習指導案

1組 計30人（男子14人，女子16人）

指導者 帖 佐 康 博

1 単 元 説明のしかたについて考えよう

（教材「アップとルーズで伝える」「仕事リーフレット」を作ろう」光村4年下）

2 単元の見目標

それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら、「アップ」と「ルーズ」それぞれの特徴を読み取ることができる。そして、読み取った説明の仕方の工夫を生かして写真と文章を対応させながら、段落相互の関係に注意してリーフレットを書くことができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・ 意欲・態度	書 く こ と	読 む こ と	言語についての知識・ 理解・技能
写真と文章を対応させて説明的文章を読んだり、取材したことを写真と文章で分かりやすくまとめて書いたりしようとしている。	- 必要なことを調べて取材している。【(1)ア】 - 内容のまとまりごとに段落を書き分けている。【(1)イ】 - 写真と文章を対応させて書いている。【(1)ウ】 - 書いたものの説明の仕方の工夫について意見を述べ合っている。【(1)カ】	- 文章全体の構成と段落の関係を考へて読んでいる。【(1)イ】 - 写真と本文の対応関係を考へて読んでいる。【(1)エ】	- 指示語や接続語の役割を理解している。【(1)イ（ク）】 - 句読点を適切に打ち、必要な箇所は改行して書いている。【(1)イ（エ）】

4 単元について

(1) 単元の位置とねらい

本学級の子どもたちは、1学期教材「大きな力を出す」、「動いて、考えて、また動く」で、筆者の考えを読み取るために段落相互のつながりや事実・説明・筆者の考えの関係を捉える学習を行ってきた。また、教材「新聞を作ろう」では、新聞の特徴と作り方を学び、読み手に分かりやすく伝えるために、文章構成や文末表現を考えたり、割り付けを工夫したりしてまとめる学習を経験している。

そこで、本単元ではこれまでの学習を生かし、「アップ」と「ルーズ」の情報伝達の違いを段落相互のつながりや文章全体における段落の役割などについて考えることで読み取ることができるようにする。そして、読み取った説明の仕方の工夫を生かすために、「B書くこと」の言語活動例「疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること」と組み合わせ、リーフレット作りに取り組むことを位置付けて指導する。

教材「アップとルーズで伝える」は、サッカーのテレビ中継を通して、「アップ」と「ルーズ」の情報伝達の違いを対比的に説明している。分かりやすい説明とはどのようなものであるかを学ぶのに適した教材である。教材「『仕事リーフレット』を作ろう」では、写真と文章を工夫して組み合わせるリーフレットを作成する。写真に対応する説明の文章を「アップ」や「ルーズ」の視点で記述することで、その効果を意識した構成及び記述の能力を育成するのに適した教材である。

本単元で子どもたちは、文章全体の構成と段落の関係を整理していくことで、写真と文章の対応関係を読み取ることができ、さらに、それらを生かして写真と文章を対応させながら文章構成を考えていくことで、段落の関係に注意して文章を書くことができると考える。「対比して述べる」という説明の工夫は、国語科だけでなく、総合的な学習の時間など、話したり書いたりする際にも活用することができ、子どもたちの言語活動の充実につながっていくと期待される。

ここでの学習は、写真・図表・地図などと文章を対比させながら、段落どうしのつながりに気を付けて読む3学期教材「ウナギのなぞを追って」の学習へとつながっていく。

(2) 子どもの実態（調査日 平成24年9月18日 調査人数30人）

本単元の内容に関わる子どもの実態については、以下のとおりである。（数字は人数）

【調査①】 説明的文章を読むことへの興味・関心			
好き（16）〔理由〕新しいことを知ることが楽しいから（16）			
あまり好きではない（14）〔理由〕読み取ることが難しいから（14）			
【調査②】 説明的文章を書くことへの興味・関心			
好き（12）〔理由〕伝えることが楽しいから（9） 調べることが好きだから（3）			
あまり好きではない（18）〔理由〕説明の仕方が難しいから（12） 書き方に迷うから（6）			
【調査③】 書いて分かりやすく伝えるために大切なこと（複数回答）			
文字を間違わない（9） 正しく句読点を打つ（5） 図・表・写真を用いる（4）			
段落を分ける（4） 接続語を用いる（4） 文末表現をそろえる（3） 例を示す（2）			
【調査④】 指示語、接続語の理解 ※正答人数			
しかし（25）	さらに（28）	でも（24）	このように（28）
【調査⑤】 段落（改行）の意味の理解（複数回答）			
話題が変わるとき（23） 場面が変わるとき（7） まとめて述べるとき（4）			

本学級の子どもたちは、説明的文章を読んだり書いたりすることに対して、やや苦手意識をもっている。説明的文章を通して、今まで知らなかったことを知ることや周りの人に伝えることの楽しさを感じている子どもがいる一方で、読み取りや書き方に難しさを感じている子どももいる（調査①②）。書いて分かりやすく伝えるために大切なこととして、教材「新聞を作ろう」の学習の際に留意した点が多く挙げられたが、写真等を用いることに着目した子どもは少ない（調査③）。指示語、接続語の役割や段落（改行）の意味については、理解している子どもが多い（調査④⑤）。

5 指導に当たって（研究との関連）

【「思考活動」を促す学習指導】

- 「つかむ」過程では、複数のリーフレットを紹介することで、これまで作成した報告文や新聞などとの違いを捉えることができるようにする。また、教材文の単元名とリード文に着目させることで、説明の仕方について考える学習への見通しをもたせるとともに「山下小委員会活動リーフレット」作りへの意欲を高めることができるようにする。【「思考活動」：「想起」、「比較」】
- 「深める」過程では、「アップ」と「ルーズ」で表された写真を提示し、キャプションを付けたり、写真から分かることを書き出したりしながら本文と比較することで、説明の仕方の工夫や段落相互の関係を読み取ることができるようにする。【「思考活動」：「比較」、「分類・整理」】
- 「高める・味わう」過程では、「アップとルーズで伝える」で学習した説明の仕方のポイントを掲示しておくことで、自分が伝えたいことは何かを意識して「アップ」と「ルーズ」の写真を使い、段落を分けて書くなど、リーフレットを作成する際に活用することができるようにする。【「思考活動」：「想起」、「付加・修正」】
- 「まとめる・広げる」過程では、単元導入時と単元末に作成した2つのリーフレットの違いや変わった理由をまとめることで、これまでの学習の過程を振り返り、これからの学習や生活で生かすことができるようにする。【「思考活動」：「評価」】

【評価するための手立ての具体化】

「アップとルーズで伝える」で読み取った説明の仕方が、「山下小委員会活動リーフレット」作りの際、どのように生かされたかを見取ることによって観点を明確にした評価ができるようにする。その際の評価の方法は、主に単元導入時と単元末に作成した2つのリーフレットを用いる。

リーフレット作りの評価の観点を「書くこと」の指導事項に沿って設定し、表現例を想定することで、授業中に子どもの考えを見取り、個に応じた指導にもつなげることができるようにする。

特に、「まとめる・広げる」過程においては、自分が作成したリーフレットについて工夫したことやその理由を表現させることで、「十分満足できる（A）」の学習状況を達成している子どもを見取ることができるようにする。

6 指導計画（全15時間）

〔 〕は重点評価項目及び評価方法

過程	時間	主 な 学 習 活 動	教 師 の 指 導 ・ 評 価
つかむ	2	1 『『仕事リーフレット』を作ろう』を読み、学習課題を設定する。 「山下小委員会活動リーフレット」を作ろう。	○ リーフレットの見本を用意することで、リーフレットの形式や特徴を捉えることができるようにする。 ○ 試しの「委員会活動リーフレット」を作成することで、より分かりやすいリーフレットを作成するために何が大切か、課題意識をもつことができるようにする。
	6	2 試しの「委員会活動リーフレット」を作成し、感想を話し合う。 3 「アップとルーズで伝える」を読み、学習計画を立てる。 4 「アップとルーズで伝える」の文章の組立てについて考える。 ○ 第1～3段落の組立てを考える。 ○ 第4～6段落の組立てを考える。 ○ 第7・8段落の内容と段落の役割を考える。 ○ 全文を読み返し、文章構成や段落相互の関係を考える。 5 「アップとルーズで伝える」の説明の仕方や工夫について考える。 6 身の回りのアップとルーズが使われている例を見付け、そのよさを考える。	○ 単元名とリード文を確かめることで、説明の仕方を学習することへの意識を高めることができるようにする。 写真と文章を対応させて、説明的文章に興味をもって読み、分かりやすいリーフレットを作ろうとしている。【国語への関心・意欲・態度・発言、ノート】 ○ 「デジタル教科書」で本文を表示し、大切な言葉や文にサイドライン等を引くことで、視覚的に段落の構造を捉えることができるようにする。 ○ 「しかし」や「でも」の接続語に着目させることで、「アップ」と「ルーズ」それぞれの長所や短所を捉えることができるようにする。また、「このように」に着目させることで、段落相互の関係に気付くことができるようにする。 ○ 同じ話題を取り上げた新聞記事を比較させることで、テレビ以外にも「アップ」と「ルーズ」が目的に応じて使い分けられていることに気付くことができるようにする。
深める	6	7 リーフレットにまとめる委員会を決め、情報を集める。 8 集めた情報の中から載せる内容と写真を選び、リーフレットを作る。	○ それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読んでいる。 【読む能力：発言、ノート】 ○ 新聞や雑誌などを用意し、「アップ」と「ルーズ」の使われ方について、自由に調べることができるようにする。
	6	9 作ったリーフレットを見直し、より分かりやすい表現に書き直す。	○ 2枚の写真（「アップ（部分）」と「ルーズ（全体）」）を用いることで、効果的な説明ができるようにする。 ○ 1学期教材「新聞を作ろう」の学習を想起させることで、文末表現や句読点、改行などの書くときのポイントに気付くことができるようにする。
高味めわる	6	10 作ったリーフレットを友達に紹介したり、単元の学習を振り返ったりする。	書こうとすることの中心を明確にして、写真と文章を対応させながら、段落相互の関係に注意して文章を書いている。【書く能力：リーフレット】 ○ 単元導入時に作成したリーフレットと説明の仕方の違いやその理由を考えさせることで、本単元で身に付けた力を確かめることができるようにする。
	1	（本時15/15）	○ 作品を書画カメラで提示することで、友達の作品のよさなどについてみんなで感想を交流できるようにする。

7 本 時 (15/15)

(1) 目 標 説明の仕方の工夫を確かめて、自分の作成したリーフレットを紹介することができる。

○「思考場面」：2つのリーフレットの説明の仕方の違いやその理由を考える場面

「思考活動」：評価する 「材料」：単元導入時と単元末に作成したリーフレット 「視点」：記述の内容（主題）、記述の仕方（写真、文章構成）

(2) 展 開 は教師の言葉掛け は予想される子どもの反応 は重点評価項目 ☆はICTの留意点

過程(分)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導・評価
つかむ (5)	1 本時の学習内容を確認する。 今日はどんな学習をしますか。 これまでの学習を振り返りながら、出来上がったリーフレットを紹介します。 2 学習課題と学習の進め方を確認する。 自分の作った「山下小委員会活動リーフレット」の説明の仕方の工夫をしようかいしょう。 この学習の最初の時間に作ったリーフレットと比べたら、説明の仕方の工夫を見付けられそうです。	○ 学習計画表に着目させることで、本時の学習の見通しをもつことができるようにする。 ○ 「アップとルーズで伝える」で学習した説明の仕方を「上手な説明の仕方」として掲示しておくことで、既習内容が自分の作ったリーフレットに生かされているか、確かめることができるようにする。
深める (10)	3 2つのリーフレットを見て、「説明の仕方を変えたところ」や「説明の仕方を変えた理由」などについて考え、思考活動カードに書く。 ○ 説明の仕方を変えたところ ・ 2枚の写真を入れて、内容のまとまりごとに段落を分けて書いた。 ・ 写真を変えた。 ・ 説明する順番を変えた。 ○ 説明の仕方を変えた理由 ・ 「アップ」と「ルーズ」の2つの見方で説明すると、伝えたいことをもっと詳しく説明することができるから。 ・ ○○委員会の活動の様子を伝えるためには、この写真がよかったから。	○ 単元導入時と単元末に作成したリーフレットの記述の内容や方法を見ることで、自分自身が本単元で身に付けた説明の仕方の工夫を確認することができるようにする（評価する）。 ○ 説明の仕方の工夫だけでなく、そのように説明した理由を考えさせることで、「送り手が伝えたいこと」や「受け手が知りたいこと」によって説明の仕方が変わってくることに気付くことができるようにする
高味 めら う (20)	4 自分のリーフレットの説明の仕方の工夫を紹介する。 5 友達のリーフレットやその説明の仕方の工夫についての感想を交流する。 同じ委員会のリーフレットでも、作る人によって伝える内容や説明の仕方が違って、様々な表現の仕方があると思いました。	☆ 書画カメラを使ってリーフレットを紹介することで、友達の作品のよさや自分の作品との違いに気付き、みんなで感想を交流することができるようにする。 リーフレットを紹介し合い、お互いの説明の仕方の工夫について意見を述べ合っている。 【書く能力：思考活動カード、発言】
ま と め る (10)	6 本単元の学習でできるようになったことや考えたことなどをまとめる。 ・ 写真と説明する文章を合わせ、段落を分けて説明すると、分かりやすい説明になる。 ・ 説明の仕方は、目的によって変わってくる。	○ 「アップとルーズで伝える」の第8段落で筆者が述べていたことを想起させることで、多様な説明の仕方があることを確かめることができるようにする。 ○ 本単元で身に付けた力を振り返ることで、今後、国語の時間に限らず、他教科や生活の中で生かすことができるようにする。

第4学年国語科「アップとルーズで伝える」「『仕事リーフレット』を作ろう」における評価資料			
重点評価項目			
読み取った説明の工夫を生かして写真と文章を対応させながら、段落相互の関係に注意して書くことができる。			
評価の観点			※学習活動（時）
ア	課題設定・取材	必要なことを調べて取材している。	7（10／15）
イ	構成	内容のまとまりごとに段落に書き分けている。	4（3／15）～□
		【言語についての知識・理解・技能】 句読点を適切に打ち、必要な箇所は改行して書いている。	4（3／15）～
ウ	記述	写真と文章を対応させて書いている。	5（7／15）～⇕
カ	交流	書いたものの説明の仕方の工夫について意見を述べ合っている。	10(15／15)
評価方法：ノート、思考活動カード、作品（リーフレット）			
十分満足できる（A）		おおむね満足できる（B）	
（ア、イ、ウ、カを満たし、これまでに学習した単元の指導事項の内容を活用できている） ○ 工夫した説明の仕方についての理由やこれからの説明に生かしていきたいことなどを述べ合っている。		ア インタビュー活動やアンケートなどを基に、リーフレットを作るために必要な情報を集めている。	
		イ 教科書の作例から構成のよさを見つけ、「全体（ルーズ）」と「部分（アップ）」のまとまりごとに段落を書き分けている。 【言語についての知識・理解・技能】 ○ 文の読みやすさや分かりやすさを考え、句読点を適切に打ったり、記述の内容が変わる場面などでは、改行をしたりしている。	
		ウ 写真と説明する文章を適切に組み合わせて書いている。	
		カ リーフレットの説明の仕方の工夫について意見を述べ合っている。	
表現（記述）例			
○ 「2枚の写真を対応する文章の近くにレイアウトしたのは、読む人に読みやすく感じてもらうためです。」 ○ 「読む人に興味をもってもらうために、『問い』から書き出しました。」 ○ 「『アップとルーズで伝える』で学習したとおり、『このように』でまとめました。」		〈ア、イ、ウを満たす作品例〉  自主ゼミというやうにの 始まる時ぐに、音楽を流 してみんなに活動の始まり を知らせる仕事をしてい るのが、ほう道委員会です。 みんなが放送を聞いて動 くので、時計をしっかりと見 て、時間を守って放送する ことが大切です。また、聞 く人に分かりやすい放送を するために、げんごうを何 度も読んで練習してから放 送するようにしています。 ほう道委員会では、みんな に楽しい給食時間を過ご してもらうために、お昼の 放送を工夫しています。う らないやクイズの問題を考 えるのも、ほう道委員会の 仕事です。	
		〈カの実例〉 ○ 「書き出しに『問い』を入れました。」 ○ 「『～の写真を見てみましょう。』という表現を入れました。」	
評価を生かした指導			
〈Bの学習状況の子どもに対して〉 ○ 「新聞を作ろう」での写真の割り付けや教科書の「仕事リーフレット」の例を参考に、写真と文章を対応させて読みやすい配置になっているかを考えさせるようにする。 ○ リーフレットを作成するまでの学習過程を振り返らせ、単元を通してどんなことを習得してきたかを想起し、記入させる。		〈Cの学習状況の子どもに対して〉 ○ 「アップ」と「ルーズ」それぞれの写真から分かることを書き出し、そのまとまりごとに段落を書き分けさせる。 ○ 写真と文章が対応するように、枠を設けた用紙に記述させる。 ○ 見直しのチェック表を用意し、記述に関する不備や説明の仕方の工夫について確かめさせる。	

※ 指導案「6 指導計画」の学習活動